

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																			
松本情報工科専門学校	平成18年2月20日	千村 重平	〒390-0875 松本市城西1丁目7番1号 (電話) 0263-33-8800																			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																			
学校法人未来学舎	昭和61年10月30日	青山 織人	〒390-0841 松本市渚2丁目8番5号 (電話) 0263-26-5500																			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																		
工業	工業専門課程	自動車整備学科	平成19年文部科学省 告示第20号	—																		
学科の目的	<p>本校は、学校教育法及び専修学校設置基準に基づき、工学を実践する技術者として社会から期待される知識と技術を持ち、どのような職場でも歓迎される人格を兼ね備えた人材を育成することを目的としている。</p> <p>自動車整備学科では、現代の高度化した自動車に対応できる専門知識と専門技術の教育に加え、コミュニケーション能力の向上を図り、日本の基幹産業として経済的・環境的に大きな役割を持つ自動車業界において即戦力となる人材の教育・養成をめざしている。さらに、以下の3つの学科目標を掲げている。</p> <p>① 一般教養の学習により社会人としての基礎知識を身につける。          ② 専門科目の学習により自動車の知識・技術を身につける。          ③ 単体並び現場実習により、機能・構造を理解し実習を通じて自ら考え行動し整備技術の質の向上を図る。</p>																					
認定年月日	平成27年2月17日																					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験																
2	昼間	2265時間	921時間	—	1344時間	—																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
160人	58人	0人	5人	0人	5人																	
学期制度	■前期:4月 1日 ~ 9月30日 ■後期:10月1日 ~ 翌年3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席時間、授業態度、期末試験・期末課題等により、秀、優、良、可、不可の5段階評価																	
長期休み	■学年始:4月1日~4月8日 ■夏季:7月28日~8月19日 ■冬季:12月26日~1月8日 ■学年末:3月17日~3月31日			卒業・進級条件	■すべての科目単位の修得 ■卒業試験の合格																	
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ①担任教員の個別面談、学生への電話、メール、②担任教員の保護者連絡、保護者面談③学校長・副校長の面談			課外活動	■課外活動の種類 スポーツ大会 学科研修旅行 ■サークル活動: 有																	
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 県内自動車ディーラー・民間整備工場・部品販売店等 ■就職指導内容 担任教員又は就職課担当員によるビジネスマナー教育 履歴書の記入方法、面接等の指導 ■卒業生数 18 人 ■就職希望者数 18 人 ■就職者数 18 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成 29 年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二級ガソリン自動車整備士</td> <td>②</td> <td>18人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>二級ジーゼル自動車整備士</td> <td>②</td> <td>18人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	二級ガソリン自動車整備士	②	18人	18人	二級ジーゼル自動車整備士	②	18人	18人	0	0	0	0
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																			
二級ガソリン自動車整備士	②	18人	18人																			
二級ジーゼル自動車整備士	②	18人	18人																			
0	0	0	0																			
中途退学の現状	■中途退学者 0名 ■中退率 5% 平成29年4月1日時点において、在学者19名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者18名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 ①担任教員の個別面談、学生への電話、メール、②担任教員の保護者連絡、保護者面談③学校長・副校長の面談																					
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 授業料の一部免除 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 平成29年度 1名																					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																					
当該学科のホームページURL	URL:http://mirai.ac.jp/mie/																					

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

当該学科分野における専門人材育成に必要な基礎から応用・実践までの一貫した教育を施すため、地域企業や外部団体からご意見をいただき、より実践的な教育課程を編成し授業内容に反映していくことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は教務部の下に置くものとする。なお、学科のカリキュラムについては教育課程編成委員会での審議決定事項を尊重し、登校教務部において最終決定するものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年8月30日現在

名前	所属	任期	種別
今井 淳	(一社)長野県自動車整備振興会松本分室長	平成28年10月1日～ 平成30年9月31日(2年)	
小口 幸俊	トヨタカローラ南信(株)	平成28年10月1日～ 平成30年9月31日(2年)	
0	0	0	
0	0	0	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(11月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 平成29年11月20日 16:00～17:00

第2回 平成30年3月14日 16:30～17:30

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

実績として、カリキュラム内に企業へのインターンシップを実習の授業として組み込んだ。

今後の課題としては、自動車業界(企業)と連携して地域貢献等で実施できることなどが無いかを模索中。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

卒業後の即戦力として多様化する業界への対応を目指すため実習を強化し、企業に対してはインターンシップの受け入れ及び校内での実習及び学科への講師の派遣などにより連携の強化を図ることを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

主な連携科目は資格取得のために行うものであるため、授業は連携先企業または団体により行われる。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
低電圧講習	ハイブリット車におけるバッテリー及びモーター周りの配線など感電の危険のある作業に必要な資格を取得するための講習	(一社)長野県自動車整備振興会
ガス・アーク溶接講習	基本工作作業で使用するガス・アーク溶接に関する知識と技術を習得するための講習。	(社)長野県溶接協会・中信溶接協会

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員に対し、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に関わる職務の遂行に必要な知識又は技能を習得させ、その遂行に必要な能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。自動車整備学科においては、現代の高度化した自動車整備に必要な実践的かつ専門的な能力を養成するために必要な知識、技術、技能などについて関係団体・職能団体及び企業等が実践する研修・セミナー・各種展示会等に教員を参加させる。さらに指導力の修得・工場棟の研修にも参加させる。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「整備主任者法令研修」(連携企業等:長野県自動車整備振興会)

期間:10月10日又は12月7日 対象:整備主任者

内容:変更された法令等を中心とした講習

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「"伝える"から"伝わる"コミュニケーションへ」(連携企業等:長野県専修学校各種学校連合会 中信支部)

期間:7月1日 対象:専修学校各種学校教職員

内容:"伝わる"コミュニケーションに必要なポイントの講習

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「整備主任者技術研修」(連携企業等:長野県自動車整備振興会)

期間:11月6日 対象:整備主任者

内容:自動車新技術等の講習及び実技

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「 未定 」(連携企業等:長野県専修学校各種学校連合会 中信支部)

期間: 未定 対象:長野県専修学校各種学校教職員

内容: 未定

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価については、自己点検評価表を策定し、先ず教職員がそれぞれの部署で自己評価を実践する。そこで作成された自己点検評価表の適性度を学校関係者評価委員会により点検・評価する。当該委員会の議論及び意見をもとに作成した「学校関係者評価報告書」を学校長が再点検の上、次年度の学校運営に反映させる方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・教育目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生受け入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域活動
(11) 国際交流	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会による点検・評価後、各評価項目について教務部において以下の点について、評価結果を活用することとした。①オープンキャンパスにおける職場見学会として先端的な設備等を持つ企業を見学先に加えることとした。②社会貢献・地域貢献として地域清掃のボランティアを募集して開催した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年8月31日現在

名前	所属	任期	種別
今井 淳	(一社)長野県自動車整備振興会松本分室長	平成28年10月1日～ 平成30年9月31日(2年)	企業等委員
小口 幸俊	トヨタカローラ南信(株)	平成28年10月1日～ 平成30年9月31日(2年)	企業等委員
中村 吉保	(一社)信州オープンビジネスアライアンス理事	平成28年10月1日～ 平成30年9月31日(2年)	企業等委員
相澤 斉樹	アースシステム(株)	平成28年10月1日～ 平成30年9月31日(2年)	企業等委員
東海林 正也	(株)ホンダカーズ信州	平成28年10月1日～ 平成30年9月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) ( )

URL: <http://www.mirai.ac.jp/mit>

公表時期: 平成30年5月

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目に基づき、学校の概要、目標及び計画、各学科等の教育、教職員、キャリア教育・実践教育、様々な教育活動・教育環境、学生の生活支援、学生納付金・修学支援、学校の財務、学校評価について公益法人として関連団体・業界・学生就職先のほか、広く万人に発信する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	各学科等の教育
(3) 教職員	教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL:<http://www.mirai.ac.jp/mit>

## 授業科目等の概要

(工業専門課程自動車整備学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ガソリンエンジン構造	ガソリンエンジンの概要、構造、作動を学ぶ。	1前	50	3	○			○		○		
○			ディーゼルエンジン構造	ディーゼルエンジンの概要、構造、作動を学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
○			シャシ構造	自動車のシャシに関する各部品及び装置の概要、構造、作動を学ぶ。	1通	60	3	○			○		○		
○			電装品構造	基本的な原理・法則及び電装品の概要、構造、作動を学ぶ。	1通	50	3	○			○		○		
○			基礎自動車工学	自動車に関する材料、燃料、潤滑、製図及び各種計算方法等を学ぶ。	1通	54	3	○			○		○		
○			エンジン整備	内燃機関の概要、構造、整備について学ぶ。	1後	35	2	○			○		○		
○			シャシ整備	シャシに係る各装置の概要、構造、整備について学ぶ。	1後	40	2	○			○		○		
○			電装品整備	電気装置の概要、構造、整備について学ぶ。	1後	25	1	○			○		○		
○			整備機器	自動車整備で使用される工具、機器、測定機器、検査機器について学ぶ。	1前	34	2	○			○		○		
○			自動車検査	道路運送車両法保安基準について学ぶ。	1後	25	1	○			○		○		
○			工作実習	基本作業を通して、各種工作器具及び各種工具の正しい使用方法を習得する。	1前	25	1			○	○		○		

○		計測実習	測定作業を通して、各種測定機器の正しい使用方法を習得する。	1前	45	1				○	○		○		
○		エンジン整備作業	各種エンジンの分解・組み付けを通して基本的な構造・作動を学ぶ。	1通	175	5				○	○		○		
○		シャシ整備作業	シャシに関係する各装置の分解・組み付けを通して基本的な構造・作動を学ぶ。	1通	287	8				○	○		○		
○		電装整備作業	各種電気装置の脱着・分解・組み付けを通して基本的な構造・作動を学ぶ。	1通	140	4				○	○		○		
○		自動車検査作業	定期点検記録簿に従い、定期点検の基本作業を学ぶ。	1後	28	1				○	○		○		
○		資格取得・その他	自動車業界に関する各種資格取得及びビジネススマナー等について学ぶ。	1通	80	5	○			△	○	○	○		○
○		ガソリンエンジン構造	ガソリンエンジンの概要、構造、作動を学ぶ。	2前	25	2	○				○		○		
○		ディーゼルエンジン構造	ディーゼルエンジンの概要、構造、作動を学ぶ。	2前	20	1	○				○		○		
○		シャシ構造	自動車のシャシに関する各部品及び装置の概要、構造、作動を学ぶ。	2前	35	2	○				○		○		
○		電装品構造	基本的な原理・法則及び電装品の概要、構造、作動を学ぶ。	2前	25	1	○				○		○		
○		二輪自動車	燃料装置やサスペンション等について二輪車特有な装置の構造・作動を学ぶ。	2前	20	1	○				○		○		
○		基礎自動車工学	自動車に関わる各種計算方法を学ぶ。	2前	20	1	○				○		○		
○		エンジン整備	内燃機関の概要、構造、整備について学ぶ。	2後	20	1	○				○		○		
○		シャシ整備	シャシに関係する各装置の概要、構造、整備について学ぶ。	2後	25	2	○				○		○		

○		電装品整備	電気装置の概要、構造、整備について学ぶ。	2後	15	1	○			○		○		
○		故障原因探求	各部の基本的な点検と故障原因探求の進め方について学ぶ。	2後	40	2	○			○		○		
○		自動車法規	道路運送車両法について学ぶ。	2後	25	2	○			○		○		
○		エンジン整備作業	各種エンジンの分解・組み付けを通して基本的な構造・作動を学ぶ。	2通	161	4				○	○		○	
○		シャシ整備作業	シャシに関する各装置の分解・組み付けを通して基本的な構造・作動を学ぶ。	2通	196	6				○	○		○	
○		電装整備作業	各種電気装置の脱着・分解・組み付けを通して基本的な構造・作動を学ぶ。	2通	126	3				○	○		○	
○		故障原因探求実習	実車にて各部の基本的な点検と故障原因探求の進め方について学ぶ。	2通	133	4				○	○		○	
○		自動車検査作業	定期点検記録簿に従い、定期点検の基本作業及び検査について学ぶ。	2後	28	1				○	○		○	
○		資格取得・その他	自動車業界に関する各種資格取得及びビジネスマナー等について学ぶ。	2通	168	10	○			△	○		○	○
合計					34科目		2,265単位時間							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
当該科目において行われる試験に合格しておりかつ、欠席時間が当該科目の出席すべき単位時間の10分の1未満の者。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	26週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。